
帰ってきたらお前に……

こはるん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

帰ってきたらお前に……

【Nコード】

N6981F

【作者名】

こはるん

【あらすじ】

黒の組織との決着をつけに一人で旅立つコナン……「戻ってきたら……お前にオレの本当の想いを伝えるから……」と哀に言い残し……

#第0話# (前書き)

初めて小説を投稿する小春譲と申します。漆黒の追跡者^{チェイサー}の哀のある言葉から話が始まってます。

CPはコ哀です。妄想が完璧に複雑に入り組んでいます。

(↑予告動画見て：思い付きました：笑)

私は完璧に初心者です。

以下に当てはまる人はGo back!! したほうが身のためですよ(ノ|<。)

×不馴れな未熟なおはなしはイヤだ

×コ哀CPがイヤだ

×妄想果汁100%入りのおはなしがイヤだ

3つの喚問を見事に通った方は：覚悟を決めて：おはなしの扉をお開けください：

#第0話#

「組織はあなたに関わったすべての人間を消すつもりなのよ!!」
哀は目を血眼にして言った。

「分かってる…」

落ち着きはらったように…コナンは言う。

「決着をつけてくる…やつらと…これはすべてオレの問題なんだ…
すべてオレが巻き起こしたことだから…お前をこれ以上巻き込むわけにはいかない…いや、巻き込みたくないんだ…」

「な、何言ってるのよ!? あなた自分が何言ってるか分かってる…
!? ……んっ ……」

哀は発する言葉をコナンの唇によって封じられた。そう…哀はコナ

ンに深く口付けられていた。深く……深く……そして、優しく……

哀は抵抗しようとした。しかし、出来なかった。あまりにも……突
然の打撃に混乱していたから。

しかし、その混乱もコナンのぬくもりに次第によってかき消され……
やがて哀もゆっくり目を閉じ口付けを受け入れるのであった。

「灰原……ごめん……本当にごめん……」

唇を哀から離してコナンは言う。

「工藤くん……？ あなた本気で言ってるの？……」

「何も言うな……今は……今はこのまま……頼む……」

「工藤くん……どうしてあなたはいつも……一人で無茶ばかりするのよ？
？どうしてよ……？バカ……行かないで……」

「本当にごめん……でも、決めたことだから……」

（お前をこうして……抱き締めることが出来るのは……これが最初で最後かもしれない）

混乱し震える哀をコナンは強く優しく抱き締めた……
驚きながらも……背中に手を回し……コナンの胸に強く顔を埋める哀であつた。

そう……コナンに深く口付けられていたのである。深く……深く……抵抗しようとはした……しかし……出来なかった。
あまりにも……突然の打撃に混乱していたから。
しかし、混乱もコナンのぬくもりによってかき消され……やがてゆっくり目を閉じ口付けを受け入れる哀であつた。

☆1話〜旅立ちの時まで…☆（前書き）

1話…更新時間…深夜…妄想の連鎖です。

ヤバいわ…妄想…

不慣れな小春だけ…

読者さんありがとう

＼（≡▽≡）ノ

大感謝☆☆

☆1話〱旅立ちの時まで…☆

「まさか…明日にでも旅立つつもりなの…?」

落ち着き…ソファーでお茶を口にしながら哀が聞く。

「いや、明日じゃ、いくらなんでも…早すぎるだろ?旅立ちが3日後…ジョディ先生達にも伝えてある」

「工藤くん……」

「大丈夫だから…必ず帰ってくるからよ。オレはお前に幸せになって欲しい……組織の影に怯えることのない…穏やかで平和な生活を送って欲しいから…いや、オレがお前を幸せにしてやりたい……もう、お前の苦しむ姿は見たくないから……約束する…必ず帰ってくる……」

「あなたはなぜ……私の幸せのためにそこまで……」

「それは……オレはお前が……」

そこまで言うところまでは哀の唇に深く口付けた。

目をギュツとつぶる哀。その目からは……涙が溢れていた。

そのことに気付いたコナンは哀を強く優しく抱き締めた。

（オレはもう、お前に……苦しんで欲しくない……そのために……オレが出来ることは組織を壊滅させ……お前に平和な日常を与えてやること……そして……お前に伝えたい……愛してるって……）
哀を抱き留める腕に力を込め、コナンはそう思った。

「なあ、どこか行きたいところあるか？博士が連れて行ってくれるって言ってたけど……それに旅立つ前に……心に刻んでおきたいんだ……お前との思い出を……」

「浜辺……かしら……1回あなたと行ってみたかったのよ。」
そう言うとき哀は淡い笑みを浮かべた。

「よし、決まりだな。」

「旅立つこと……博士には言ったの……？」

「ああ……数時間前にな……」

「そう……」

哀は疲れた様子で答えた。

「疲れたか？」

「大丈夫だから……」

哀は体を起こし立ち上がった。

「あっ……………」

哀は疲労のあまりふらついてしまった。

「危ない!!」

ふらつく哀をコナンはしっかり抱き留めた。

「疲れてるんだろ？無理すんなよ。」

コナンは哀に優しく言うど…哀を抱き抱え…寝床に連れていき…哀を寝かせた。

「工藤くん……………!」

「大丈夫だから…そばにいるからよ…一晩中な…」

そう言って哀の手を優しく握るコナン。

コナンの優しい言葉と手のぬくもりに安心したのか…哀はそつと目を閉じ眠りに落ちた。

☆2話〜博士&こはるんと話す☆（前書き）

寝かせた哀を見つめながら、コナンが回想しています。決意を、博士
&こはるんに話した時のことを…☆

あつ、こはるんって言うのはオリキャラ（笑） ☆年齢は18歳 ☆タ
レントさん ☆

私をオリキャラとして登場させてます。私…リアルではタレント志
望の高校生（卒業間近…宅習期間に突入！！）…タレントじゃあな
いですよ

9日の試験返却を目前に書いてます…ボロボロ試験…あはは…（苦
笑）

ってか、長い前書き…

お待たせ致しました。本編をどぞっ！！

言っとくけど文字数がぎゅうぎゅう…駄文かも…お許しください。

（ノ〜く。）

☆2話〜博士&こはるんと話す☆

寝かせた哀を見つめながら、コナンは、数日前の博士と小春ことこはるんとのやり取りを思い出していた。

「なあ、博士…話があるんだけど…」

「なんじゃ？新一？」

「オレ……………黒づくめの奴等と決着をつけてくる……………」

「し、新一！！…冗談じゃろ…そんなこと……………」

「冗談じゃない！！オレは本気だ！！もう、見てられねえんだよ！

！この世で一番…大切なやつが傷つくのは…」

突然のコナンの決意に、焦る博士にコナンはそう、答えた。

「この世で一番…大切なやつ…って言うのは蘭くんのことなんじゃろ？」

博士が問う。

「いや、違う……………オレが今、一番大切に思っているのは……………灰原なんだ…灰原哀なんだ！！オレは、灰原が傷つくところを何度も見てきた……………オレはアイツをただ守ることしか出来なかった。このままでは…いずれ…またアイツがやつらによって傷つくことは確かだ…アイツの苦しそうな顔を見るたびに幾度となく、胸がきしんだ…痛んだんだ…」

「ちょっと！！今の話本当なの！？」

二人の話を聞き付け、こはるんが駆け付けてきた。

「小春、聞いてたのか…じゃあ、話が早い…」

「話が早いって……あなた、自分がどんなに危険なことしようとしているのか分かってるの!? 黒の組織は…証拠となる物を全て消し去るって哀ちゃんも言ってたし…組織に乗り込んだら…あなた死ぬかもしれないのよ!!」

「そうじゃぞ!! 新一!! 自分がどんなに危険なことをしようとしてるかも一度考えるんじゃない!!」

「組織に乗り込むことが危険なことは…最初から分かってる!! それに、覚悟はもう決めてるから…アイツが笑って安心して暮らせるようになるなら…オレは傷つこうが…倒れようが…この命が散ろうが構わない!! 命を懸けてでも…灰原を守る!! そう、決めたから!!」

「新ちゃん…」

「新一…」

コナンのあまりの決意の強さに二人は黙りこくってしまった。

「頼む!! 絶対に帰ってくつから!! 帰ってきたら…オレが灰原を幸せにしてやりたい」

コナンが沈黙を切るように言った。

「まさか、一人で行くんじゃ…ないでしょうね…?」

数分間の沈黙の後、こはるんが切り出した。

「いや、それなら…大丈夫だ…数日前にジョディ先生達と話をつけてあるから…」

コナンの強い決意に負け、二人は口を揃えてこう言うのだった。

絶対、生きて帰ってくるように…哀ちゃんを幸せに出来るのはあなただけだから…と。

☆2話く博士&こはるんと話す☆(後書き)

長い文章…読んでくれてありがとう☆お疲れ様…まだまだ未熟だな
あ☆(ノーく。)

コーヒーとジュースはいかが？☆★なあ〜んちゃって(笑)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6981f/>

帰ってきたらお前に……

2011年1月5日23時08分発行